



巻 頭

兵庫県立大学産学連携・研究推進機構
放射光ナノテクセンター
センター長 籠島 靖

兵庫県ビームラインの偏向電磁石を光源とする BL08B2 は、国立研究開発法人理化学研究所（理研）及び公益財団法人高輝度光科学研究センター（JASRI）と締結した同ビームライン設置契約書に基づく設置期限を、昨年の平成 27 年 4 月 25 日に迎えたことから、兵庫県は平成 26 年 11 月 14 日付で「兵庫県 BM ビームライン（BL08B2） 利用状況等報告書・専用施設次期計画書」を理研、JASRI に提出しました。平成 27 年 2 月 6 日付で 10 年間の再契約を認めていただき、平成 37 年 4 月 25 日までの専用施設に関する契約を締結いたしました。同ビームラインでの、JST の地域結集事業によるナノコンポジット材料研究の成果、同事業終了以降も産業界ユーザーによる利用が継続的に活発であることを柱とする評価をいただきました。また、XAFS と SAXS の同時測定、空間分解 XAFS 測定技術の開発など、新しい手法の開拓に継続して取り組んでいること、データ解析へのスパコン利用の取り組みも評価をいただきました。次期計画では、光学系の調整・試料交換・測定実行を自動化するシステムの導入を提案し、現在その実現に向けて鋭意努力しているところです。

一方、論文等による成果が十分に創出されているとは言い難いとの指摘、論文誌掲載による成果発表とともに産業利用としての成果の発信をより一層積極的に行うことを要請されました。平成 25 年度より兵庫県ビームライン（BL08B2、BL24XU）の管理・運営が、（公財）ひょうご科学技術協会から兵庫県立大学に移管されました。大学の主たる使命は研究成果を論文にまとめ広く世の中に発信することですので、ひょうご科学技術協会時代に比べ論文発表への取り組みがより強く求められるのは当然のことです。ユーザー支援、ビームラインメンテナンスなど多忙な毎日ですが、研究成果を論文にまとめる、という大学人としての基本を強く意識していきたいと思えます。

今後とも関係機関の皆様の更なるご指導・ご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

